

平和な社会と、人として成長できる教育を追求しよう

学校・教職員の本来の役目を とりもどす運動をともに

執行委員長 松石 耕生



全教広島のみなさん、年度始めのお忙しいなか、組合活動やそのご支援等に感謝申し上げます。

今の学校の閉塞感は、経済界の要請に応え、子どもの発達段階を無視した「人材育成」を学校が求められていることが原因です。先生は子どもたちとゆったりとした関わりを持ちながら、信頼関係を築き、子どもの成長をサポートすることが本来の役目です。この閉塞感を象徴する全国学力テストに各自自治体の教育委員会と学校は振り回され、比較と競争の中に置かれた教師には時間がなく、子どもの学校離れ

を進めている状況です。学力テストで、県・市の順位が上がっても、よい学校・よい教育になったとはいえません。限られた者の利益のために戦争を始めてしまう視野の狭いリーダーがいる世界情勢ですが、私たちは平和な社会と子どもが人として成長する教育を追求していきましょう。

「今日も元気に学校へ来て、元気に帰っていった」「むずかしいことだけががんばっていた」「大人になって自分の思想を持ち、理想とする社会を作ろう」として生きている」そうしたことが、よい教育の答えではないかと思えます。こうした当たり前の学校・教育をとりもどすための運動をともにつくっていきましょう。

一年間のご健康とご自身の個人的な教育活動への試みを期待しております。

全国学力 調査中止を！ 悉皆調査中止を！

全国学力・学習状況調査(全国学テ)は、2007年より全国の小中学校で、一時期(2010、2012年、2020年)を除き悉皆で実施されています。多くの自治体はその対策を兼ねて独自の学力テストや過去問の練習・宿題など特別の対策が取られています。こうしたことから、本来の授業や教育活動が歪められ、子どもと学校が競争に駆り立てられる実態が、年々深刻化しています。また、拙速なCBT化に対する懸念の声も上がっています。

全教は、7月末の文科省提出を目指して、全国学テの

- ① 悉皆調査の中止
- ② CBT化の中止

を求めるオンライン署名を実施中です。職場での賛同・拡散をお願いします。



二名
の
署名
を
こちら
の
オンライン
署名
ページ
から
お願いします。

あらくさ

4年前に担任をしたS君が3月に高校を卒業した。4年かかったのは定時制だったからだ。S君は知的支援学級にいて、早い時期から工業高校への進学を考えていた。特別支援学級の生徒は、状況に応じて特別支援学校、全日制の高校、定時制、通信制、専修学校を旨すことになる。S君は、オープンスクールの参加、面接練習、受験勉強もがんばったが、合格には至らず、2次選抜で同じ高校の定時制に合格し入学した。家庭に連絡したところ、電話に出た母親は、私を懐かしいと言ってくれ、S君が入学して間もなく、スーパーでバイトを始めたこと、そのバイトを続けながら4年間、無遅刻・無欠席で通ったこと、友だちもできて楽しそうだったこと、高校の先生によくしてもらったこと、家の近くの会社に就職が決まっていることを話してくれた。

公立高校の再編計画にある福山市の高校(定時制・通信制も含む)は、特別支援学級の生徒が進路の視野に入れる学校だ。S君が全日制高校の大人数学級だとう過ぎたかは分からないが、定時制の少人数学級で先生や友だちと充実した高校生活を送ったことは確かだ。いい知らせを聞いた日になった。

(F)

未組5名参加 悩み・経験交流

障教部わいわいトークカフェ

3月25日、広島市立観音中学校で、障教部「わいわいトークカフェ」を行いました。15名が参加し、内、5名が未組員の方でした。

4月からの仕事も見通しながら、話が盛り上がりました。

今回は、参加者が多かったので、自己紹介してから、校種で分散して、トークをすすめました。学校の特徴や様子、子どもや保護者への対応、教材の紹介、プチ学校間交流など



校種に分散して交流する参加者

など、実践を交えながらのトークは、学びも広がりました。今回は、きつつき作業所のマドレーヌともみじ作業所の煎餅を準備し、美味しくいただきました。

《参加者の感想より》

■いろいろな勉強になりました。今後ともよろしくおねがいします。

■どのような点に着目すればいいのか、ということや生徒個々にどのように対応しているか、というのを学ぶことができました。保護者への対応の仕方についても理解することができました。ありがとうございます。今後は学級経営の際に、どのようなことを具体的に意識していたのか、ということも学べると幸いです。

5月12日(土)
2時半から東区民

忙しいけど...
やりがい・がんばりを共有
佐伯支部 ごくろう様会

佐伯支部は、3月27日に「1年間ごくろう様会」を組合事務所で開催しました。6名の参加でした。カレーを食べた後、異動の有無や一年間がんばってきたことなどについて参加者が語り合いました。「子ども達の成長がみられてうれしかった」、「忙しかったが、子ども達との生活は楽しかった」、「先生が足りなくて、たくさんの授業や校務分担を受け持つことになったが、我ながらよくがんばったと思う」、「職場の人間関係に気を使った。職場で相談できる仲間がいて安心だった」、「来年度は、若い先生たちに声をかけて実践を一緒に進めていこうと思う」、「支援級の子も達



1年のとりくみをふりかえる参加者

肩の力ぬいて学習会を続けよう 青年部学習会

の成長を保護者と共有しながら進めていこう」など、たくさんの思いが共有されました。遅くまで話が尽きませんでした。

「月に一回集まろう。2ヶ月に一回は学習会をしよう」を合言葉に活動しています。「思うように人が集まらんくても定期的に集まるのが大事よ」の言葉に背中押され、zoomと対面での活動を続けています。3月28日には、青年部学習会を教育研究所で



互いの実践・経験を聞きあう参加者

行いました。参加者は7名。レポート発表として、①特別支援学校の和田先生「この子はどんな子？を大切にしていきたい」、②市立小学校の寺本先生「黄金の日々」新年度がやってくる」の二本立て。①今日の前にいる子への支援で何を大切にしていたか、するべきか検討②新年度のスタートにあたっての心構え、4月はこんなことしているよ報告を、それぞれ発表しました。

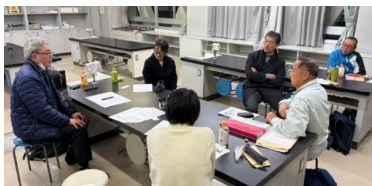
来年10月(予定)には、中四九の青年部学習会を広島で開催します。自分達のやってみたい！を大切にすること、仲間の輪を広げていくこと云々、やることはいっぱいあります。が、燃え尽きてしまわないよう肩の力を抜きつつ、声を集めながら進めるといいと思います。



安芸区 3/6 広島市内飲食店



安佐南区 3/11 高取北中



西区 3/13 中広中



佐伯区 3/17 五日市東小

2月末から年度末にかけて、広島市教組（全教）は行政区別全員集会にとりくみ、延べ56名が参加しました。学習は、改定給特法、栄養教諭の兼務体制ストップ、新たな旅費制度、公立高再編問題など。交流では、「人が足りない」、児童のダブルト調、成績処理の煩雑さなど厳しい実態が語られました。

また、年度末で組合員と



南区 2/27 荒神町小



安佐北区 2/27 真亀小

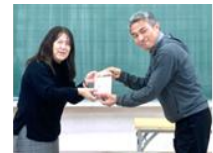


中・東区 2/27 広島市内飲食店

全教にいたから 自分を保てた

行政区集会にのべ56名参加

して退職する方へ感謝の品を渡す行政区もありました。退職者の方からは、「全教にいたから変化する情勢の中で自分を保つことができた」「自分が進むべき道を示してくれたのが全教」などの言葉が語られ、参加者みんな運動への確信を共有することができました。



退職される方へ感謝の品を贈呈

4人の組合加入があった経緯について語る藤中さん



年度末から年度はじめに

市教組(全教)で5名の組合加入

教訓を共有 組織・共済推進委員会

4月22日に県内各地から16名が参加し、オンラインで今年度第1回の「組織・共済推進委員会」を開催しました。

今回は、年度末から年度初めにかけて5名の組合加入があった広島市教組（全教）から、藤中さん、亀本さんに参加してもらい、加入に至った経緯について語ってもらいました。

亀本さんは、安佐生研でともに学ぶKさんに、学習会の際に「自由な授業・研究ができるためにも勤務条件の改善が必要」と加入を呼びかけました。Kさんは「組合のがんばりは知っています」と応じ、加入を快諾されました。

藤中さんは、栄養教諭の兼務体制をストップさせた

ことを機に1名加入。様々な全教共済に加入し、ランチツアーなどにも参加していた方が転勤の不安を口にしながら「転勤してもつながってお互いに守りあうのが組合」と対話し加入。転勤先の校長の言動に疑問をもった青年がLINEで「藤中さんの組合に入りたい」と連絡があり訪問して加入。藤中さんが普段から組合の運動について職場で語る中で、もう一人の方も「組合への恩返し」と言って加入されたと、語りました。

参加者みんな、「やはり組合のことを知ってもらうことが大切」と教訓を確認し、「今年度も仲間を増やすとりくみがんばろう」との思いを共有しました。

全教共済『春一番キャンペーン』

加入者・紹介者に

お菓子詰め合わせ
プレゼント!

2026年6月30日まで!

みんなでもらっちゃお!

抽選で期間中の加入者・紹介者30名の方に

カーフェイバリオンツアーにご招待!!
(7/31(金)中日戦タイター)



全教広島共済会 TEL:082-264-7851 FAX:082-261-1912

県内各地でひろがる「県立高残せ!」の声

県教委 再編計画の4月決定見送り



取り組まれた署名・宣伝行動。上から福山駅前(10日)、広島市緑井地区、同高陽地区、呉駅前(11日)

県内各地で街頭署名

全教広島も参加する「広島
の公立高校を守る会(守る
会)」は4月10日、11日に
県内4か所で県立高校の再
編統合計画の見直しを求め
る署名行動を行いました(呉
での行動は、呉工業高校定時
制同窓会の行動に合流)。

10日の福山駅前での行動
には、全教福山や退職教職員
等10名が参加。高校生も多
く足を止め、署名に応じてく
れました。マスコミの取材も
多くあり、守る会会長の福岡
さんは「子どもや地域の声を
聴いて、本当に統廃合が必要
なのか再検討してほしい」と
取材に応じました。

OB等を中心に21名が参加
しました。40分の行動で、
123筆の署名が集まりま
した。テレビカメラ4台が取
材、マスコミも力が入ってい
ます。「実は卒業生です」と
署名してくださいだった方や夫
婦で署名していただく方も
おられました。マスコミの困
み取材に応じた村上新日本
婦人の会・会長は「地域の宝
をなくさないで!という地
域のみなさんの思いを感じ
た。多くの方に関心を持って
ほしい」と語りました。

嘆願書・署名を提出

4月13日には「守る会・
福山」が『再編計画の見直し
と現状の継続を求める嘆願
書』を提出。福山地域の5校

1ヶ月足らずで
署名3432筆を提出
マスコミも注目



4月13日の「守る会・福山」の嘆願書提出行動(写真上)と、同15日の「守る会」の署名提出行動。多くのマスコミが会場入りした。

(葦陽・定、誠之館・定、東、
沼南、松永)の統合再編計画
を見直し、現状のまま残すよ
う申し入れを行いました。船
石委員長ら4名が、該当校の
子どもたちや市民の切実な
声などを紹介しながら、それ
ぞれの高校の存在意義を語
りました。

意見を聞く場もなく、4月
中に決めるのはあまりに拙
速過ぎる。やり方としても
乱暴だ」というのが参加さ
れた皆さんの共通した思い
です。

4月計画決定は
見送ったが・・・

同15日には「守る会」の
第1回目の署名提出を行い
ました。一ヶ月たらずの間に
集めた署名数は3065筆、
安佐北の守る会の367筆
を合わせ、全体で3432筆
となりました。参加者は県内
各地から21名。神部副委員
長の質問に県教委はまとも
に回答できませんでした。
「子どもや保護者、地域や
教育現場の関係者に説明も

署名提出の場では明言を
避けていましたが、県教委
は4月の計画決定を見送り
ました。運動の成果と言え
ますが、しかし、県教委は
17日の県議会文教委員会
で「5月中旬に決定したい」
とも言っています。署名の
さらなる積み上げと世論の
喚起で、県教委の再編計画
をストップさせましょう。

署名は継続中 二次提出は5月13日 さらに積み上げを!

署名の追加希望は
書記局まで。全教
広島 HP からも→

